

CASIO CORPORATE REPORT 2011

CASIO

カシオ計算機株式会社
<http://casio.jp/>



表紙: ネットワークサービス「イメージングスクエア」
(9ページ特集に掲載)で上の写真を「重厚な油彩」
に絵画変換したものです。



本報告書の用紙は、適切に管理された森林から出荷された材を含む
FSC森林認証紙を使用し、植物油インキを使用し、水無し印刷をしてい
ます。



経営理念

創造 貢献

カシオの経営モットーは「創造 貢献」です。
それまでにない斬新な働きをもった製品を提供することで、
社会貢献を実現するという意味です。
新しい働きをもった製品は、
多くの人の生活を助け、社会を進歩させます。
あるいは多くの人に楽しみをもたらし、
新しい文化を生み出す源となります。
新しい製品が普及すれば、そこには新しい市場が生まれ、
さまざまな周辺産業が育ちます。
カシオはこうに、製品やサービスの提供を通じて、
さまざまな側面から社会に貢献したいと考えています。

カシオの歴史

1957

梶尾四兄弟が世界初の小型純電気式計算機「14-A」を商品化、カシオ計算機株式会社を設立



1965

トランジスタを採用した電子式卓上計算機「001」発売



1966

電子式卓上計算機を海外に初輸出

1967

スイスに「ヨーロッパ事務所」を設置

1970

米国に販売会社「カシオインク」を設立
東京証券取引所第二部に株式上場

1972

東京証券取引所第一部に指定替え
世界初のパーソナル電卓「カシオミニ」発売



1974

デジタル時計「カシオトロン」発売



1978

台湾に生産会社「カシオ台湾」を設立

1980

電子楽器「カシオトーン」発売



1981

電子辞書「TR-2000」発売



1983

耐衝撃腕時計「G-SHOCK」発売



1985

中国・北京に事務所を開設

1989

ユーザープログラム不要の事務用情報処理装置「ADPS R1」発売

1995

液晶モニター付きデジタルカメラ「QV-10」発売



電波ウォッチ「FKT-100」発売

2000

防水・耐衝撃機能を備えた携帯電話「C303 CA」がIDO/DDI-セルラーグループより発売



2002

世界最薄(当時)のウェアラブルカードカメラ「EXILIM」発売



2003

「カシオ創造憲章」を制定
データプロジェクター市場に参入

2004

フルメタルケースのソーラー電波ウォッチ「OCEANUS」発売

2006

電卓累計販売台数が10億台に到達

2008

高速連写デジタルカメラ「EX-F1」発売



2009

「G-SHOCK」の累計販売個数が5,000万個に到達

2011

ネットワークサービス「イメージングスクエア」を開発

CASIO CORPORATE REPORT 2011

CONTENTS

01 経営理念／カシオの歴史

03 TOP COMMITMENT

05 製品・サービス紹介

09 特集1：デジタルアートで無限の楽しさを生み出す

11 特集2：地域と文化に根ざす製品を提供

13 世界で活動するカシオグループ

15 価値を生み出す開発力

17 スピーディで無駄のないモノづくり

19 共感を広げるコミュニケーション

21 グループで取り組む環境経営

23 企業体質を強化するITとマネジメント

25 従業員とともに歩むカシオ

27 カシオグループの社会貢献

29 売上高と利益

30 会社概要

CSR活動については、サステナビリティレポートに詳しく紹介していますので、カシオホームページをご覧ください。

常に新しい価値を提供し、 社会から必要とされる企業を目指します。



代表取締役社長

梶尾 和雄

Kashio Kazuo

先の東日本大震災において 被災された方々に 心よりお見舞い申し上げます

先の東日本大震災は想像を超える被害をもたらしました。カシオのお客様やお取引先の中にも甚大な被害を受けられた方々が大勢おられます。被災された方々には心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興を祈念しております。

カシオも一部の事業所が被災しましたが、全員の協力により、早期に復旧することができました。事業上の影響はあるものの、極小化すべくあらゆる対策を講じていきます。

また、今後の復興に向けては、被災地の方々のニーズを把握しつつ、お役に立てることは何かを考えながら、さまざまな支援を継続していきます。

世の中に新しい価値を提供する

1957年、世界初の小型純電気式計算機を発明したことで、カシオ計算機は創業しました。

当時、事務用の計算機としては外国製の電動機械式計算機が主流でしたが、この計算機は圧倒的に静かで演算速度も速く小型であり、あらゆる面から従来の計算機の性能を凌駕するものでした。こうして、この計算機は瞬間に市場に浸透しました。

このように、従来にないまったく新しい製品を開発するということは、新しい価値を世の中に提供することに他なりません。以来50年以上にわたり、カシオはパーソナル電卓、デジタル時計、電子楽器、電子辞書、デジタルカメラなど、世界

初も含めてさまざまな製品を開発し、世の中に新しい価値を提供してきました。

そして、人々の生活を便利で豊かにし、その価値が世の中に認められることによって、新しい市場が生まれ、新しい文化が生まれます。これが経営理念である「創造 貢献」の実現であり、ここには「0→1」を生み出すカシオのDNAが息づいています。

持続可能な社会の実現に向けて

カシオは早くから環境問題に着目し、製品の環境負荷の低減に努めてきました。そのためカシオの製品は高機能でありながら、徹底的に小型・軽量・薄型・省電力を追求しています。

製品以外にも中長期の温室効果ガスの削減目標をはじめとする事業所の運営や、生物多様性保全などの事業活動にかかわる行動目標を設定し、環境活動を推進しています。

また、カシオは事業運営と関連するさまざまな分野での社会問題の解決に、ステークホルダーとの意見交換を通じて取り組んでいます。

特に学校教育の側面では、日本のみならず海外でも、教材の使い手である先生方とのミーティングを継続し、教え方の研究や、製品開発へのフィードバックに努めています。

製品開発の側面でもインド式の桁表示ができる電卓を開発するなど、グローバルに身近なところで人々の不便さの解消にも継続して取り組んでいます。

一方、将来世代に対し、より良い社会を継承するために、「カシオ科学振興財団」を通じた若手研究者による先駆的かつ独創的研究に対する助成を継続して実施しています。対象

分野も電子・機械工学のみならず、健康・省エネ関連の自然科学、人文科学にまで広げ、幅広く将来の科学技術の発展に貢献しています。

その他、将来の社会の主たる構成員である子供たちを対象に、独自のプログラムに基づく次世代育成教育も継続して実施しています。

これからも、カシオは持続可能な社会の実現に向けて、「創造 貢献」の経営理念を実現し、世の中に新しい価値を提供し続けると同時に、カシオが事業を進める上で関連する環境や社会的な課題の解決に、経営・環境・社会の三つの側面のバランスを取りながら取り組んでいきます。

「グローバル・コンパクト」への加盟について

カシオ製品はグループ内だけではなく、国内外を問わず多くの部品メーカーや製造委託先企業の皆様のご協力によって作られています。したがってカシオがグローバルに事業を推進していく上で、人権・労働・環境に関して、国際的に認められた規範を遵守し、社会的責任を果たしていくことが、国際社会の持続的発展につながると考えています。

こうしたことから、カシオは2010年12月に「グローバル・コンパクト」に加盟しました。今後は、企業経営のあらゆる側面にこの原則を取り込み、その実施状況を適切に開示していきます。

さて、本レポートでは、こうしたカシオの主として2010年度における取り組みをご紹介します。ステークホルダーの皆様には、是非ご一読くださいますようお願い申し上げます。

製品・サービス紹介

コンシューマ向けには知的で豊かな生活を支え、プロフェッショナル向けにはビジネスの創造性や生産性を高める製品やサービスを提供しています。

※ここで紹介されている製品・サービスは、2011年6月時点の事業構成に基づいて掲載しています。



FOR CONSUMERS

時計

世界6局の標準電波を受信するソーラー電波ウォッチなど、先進のエレクトロニクス技術を駆使したカシオならではの商品開発やマーケティングを展開し、G-SHOCKやOCEANUS、PRO TREKなどのブランドで魅力的な時計を提供し続けています。2009年には、G-SHOCKの世界累計販売5,000万個を達成しました。電波ウォッチでは世界No.1シェア(当社調べ)を占めています。



GW-9300



Baby-G
BGA-131



SHEEN
SHE-7506



OCEANUS
OCW-T1000



EDIFICE
EQW-M1100



PRO TREK
PRW-2000



EX-TR100



EX-ZR100



EX-H20G

EXILIM

デジタルカメラ

画質、電池寿命など、優れた基本性能に加え、高速画像処理技術と超高速連写を駆使した撮影機能、動画と動画の合成などで、従来のカメラの枠にとられない、新たな用途を提案しています。

▶ デジタルカメラの技術をネットワークサービスに応用展開した「イメージングスクエア」について、9-10ページで紹介しています。

EX-word



XD-B4800



XD-B10000

電子辞書

高校生、外国語学習者、ビジネスパーソンなど多彩なユーザーの用途に応える充実したラインアップを取り揃え、国内で50%以上のトップシェア(2010年、GfK Japan調べ)を占めています。直感的に操作できるタッチパネルや見やすいカラー画面など使いやすさを追求するとともに、コンテンツの充実により幅広い層の知的探究心に応えています。

電卓

世界累計販売10億台を超える実績があり、国内で50%以上のトップシェア(2010年、GfK Japan調べ)を占めています。経理・財務などのエキスパートのニーズに応える本格実務電卓から数学教育にも貢献する関数電卓まで、多彩なラインアップを取り揃えており、便利な機能と優れた品質から世界中で支持されています。



DS-20DT

fx-CG10
(国内未発売)

電子文具

美しいラベルが手軽に打ち出せる「NAME LAND」、パソコンを使わずに年賀状などが作成できる「プリン写ル」など、文房具を扱う感覚で簡単に印刷できる電子文具の開発を通じて、家庭からオフィスまでの多彩なプリントニーズに応えています。

NAME LAND
KL-V450プリン写ル
PCP-1400

携帯電話

防水・耐衝撃などのタフネス性能や、デジタルカメラ「EXILIM」由来の高品位なカメラ性能を活かしたカシオらしい携帯電話を、日本・アメリカで展開しています。

※NECカシオモバイルコミュニケーションズ株式会社で事業を展開しています。

au
G'zOne
IS11CAau
CA007

電子楽器

グランドピアノの美しい響きと豊かな表現力を追求した電子ピアノ、曲づくりや音づくりが楽しめるハイクレードキーボード、鍵盤が光って弾くところを教えてくれる初心者向け電子キーボードなど、多彩な製品群を通じて、音楽人口の拡大を目指しています。

Privia
PX-830BP

CTK-7000



LK-208

FOR PROFESSIONALS

ハンディターミナル

小売店の接客業務を支援するコミュニケーション端末から、倉庫内の高所作業にも対応できる物流業向けのハンディターミナルまで、使いやすさと堅牢性を追求した充実の製品群で、さまざまな現場のIT化を支援しています。



IT-300



DT-X8

データプロジェクター

独自に開発した「レーザー&LEDハイブリッド光源」を全モデルに搭載。環境に悪影響を及ぼす水銀を含んだランプを用いることなく高輝度を実現しており、先進の次世代プロジェクターとして各方面より高い評価を得ています。



XJ-H1650

ページプリンタ

プリンタ本体からトナーや印刷ソフトウェアにいたるまで一貫した開発体制のもと、環境への配慮と経済性の両立を追求。プリンタ業界初のカーボンオフセット付きトナーの実現や、用紙などの節減を支援する印刷ツールを提供するなど、先進的な取り組みが高い評価を得ています。

SPEEDIA
GE5000SPEEDIA
N6100

電子レジスター

機能や用途に合わせて選べる豊富なラインアップにより、国内シェアNo.1(2010年 RJCRサーチ調べ)を占めています。2007年からはインターネットに接続して「売上集計管理サービス」などを利用できる「ネットレジ」を展開しており、飲食店や小売店を中心に好評を博しています。



QT-6000

システムソリューション

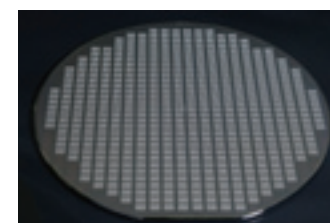
カシオ情報機器では、中小規模企業の販売管理・会計・給与業務などをサポートする「楽一」をはじめ、さまざまな業種・業界・業務に特化したシステムを展開。カシオヒューマンシステムズでは、「ADPS人事統合システム」を中心に、「人財」の有効活用を支援するシステムも展開しています。



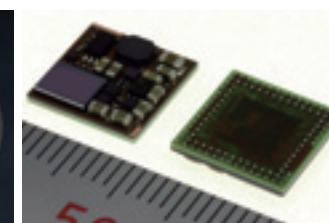
楽一

電子デバイス

カシオマイクロニクスは、スマートフォンなど多くの機器に利用されている最先端の半導体のパッケージ(WLP)の製造を受託しています。甲府カシオでは、中小型STN/TN液晶などのデバイスを製造しています。



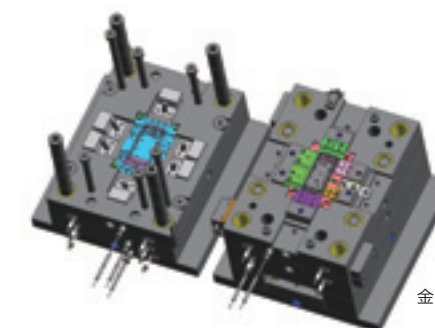
WLP



EWLP

金型・プラスチック成形

山形カシオでは、カシオ製品の製造で培った成形技術を活かし、携帯電話や車載部品などのプラスチック部品の成形、および金型の製造を受託しています。



金型

デジタルアートで 無限の楽しさを生み出す

カシオはデジタルカメラの技術を進化させて、誰でもアートを楽しめる新しいネットワークサービスを提供します。

デジタルカメラ技術を進化させて ネットワークサービス 「イメージングスクエア」をスタート

カシオはデジタルカメラの開発において、ありのままに撮るだけでなく「デジタルにしかできないこと」を追求し、動くものを認識して背景から切り出す「ダイナミックフォト」や、現実を超えた鮮やかな色彩を引き出す「HDRアート」などを提案してきました。

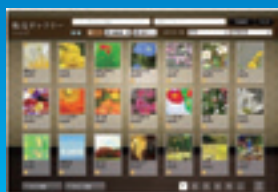
これらの開発で培った技術を進化させ、2011年1月、撮った写真を使って、誰でもアートを創造できるネットワークサービス「イメージングスクエア」をオープンしました。

「イメージングスクエア」は、デジタルカメラや携帯電話で撮った画像を、多彩なアートに加工して、自分だけの作品を作れるネットワークサービスです。Webサイト上の操作だけで、簡単に芸術的な画像が完成します。今まで保存して眺めるだけだった一枚の画像が素材となって、表現する楽しみを新たに生み出すのです。



ユーザー同士がつながる コミュニケーションの場を提供

「イメージングスクエア」の楽しみは、作品を作るだけでなく、ユーザー同士がつながって交流できることにあります。プロの画家と同じように自分のアトリエを作って、他のユーザーから感想をもらったり、評価してもらったり、売買するなどの交流を通じて、新たな作品を生む楽しみを追求することができます。FacebookやTwitterなどソーシャルネットワークサービスとも連携し、ユーザーが自分の作品について気軽につぶやいたり、人の作品へのコメントをより簡単にできるようにしています。



一枚の画像から新たな楽しみが生まれる



1. 絵画調に変える 「バーチャルペインター」

撮った画像を、油絵、水彩、色鉛筆などで描いたような絵画調に変換します。実際に人が手で描いたような自然な仕上がりは、プロのアーティストからも高く評価されています。

Virtual Painter-01

画 用紙の表面の凸凹や色あいのデータと、絵の具のデータを重ね合わせ、実際の画用紙に描いたようなリアルな質感を再現しています。

Virtual Painter-02

人 は絵を描く時に、輪郭を描いてから中を塗る、目立つものを先に描く、縦に長いものは縦方向に塗る、といった、決まった描き方をしています。人間特有のこうした筆の動かし方を再現して、線の重なり方や塗り方を、人間らしいタッチにしています。

Virtual Painter-03

割 り出した筆の動きに従って、線の始まりでは絵の具が盛り上がり、線の終わりではかすれるといった、筆で塗った時に特有の変化をつけています。

Virtual Painter-04

色 が重なり合った時の混ざり方やにじみ方は、絵の具の材質によって異なります。この違いをデジタル化して、重なり合った領域の混ざり方を計算し、油絵らしさや水彩らしさを再現しています。

2. 芸術的な写真表現を創り出す 「HDRアートクラフト」

一枚の画像から色彩情報を取り出して、彩度やコントラストの強弱を部分的に変化させて再合成することで、現実を超えた鮮やかな色のアートに変換します。人が本来もっている記憶や印象に近付け、ドラマチックなアート作品を作り出す独自の画像処理変換技術です。



3. 新しい絵を創造する 「DPアニメーション」

撮った画像の中から、人物やペットなどを切り出して、別の背景と合成し、現実にはありえない風景をつくり出すことができます。背景には、自分で作った絵画調画像やHDRアートも使えます。さらに、撮った人物の静止画を一枚取り込むだけで、生命を吹き込まれたように、音楽に合わせてダンスを踊ります。



今後も「イメージングスクエア」は、アートを生活の一部として楽しめるよう、新しい機能やサービスを発展させていく予定です。カシオは「イメージングスクエア」を通じて、お客様と双方向につながり、お客様とともに新しい文化を生み出していきます。

IMAGING SQUARE

<http://art.casio.com>

地域と文化に根ざす製品を提供

カシオは今、成長著しい新興市場に向けて、それぞれの地域の暮らしや文化に合わせた製品を積極的に展開しています。

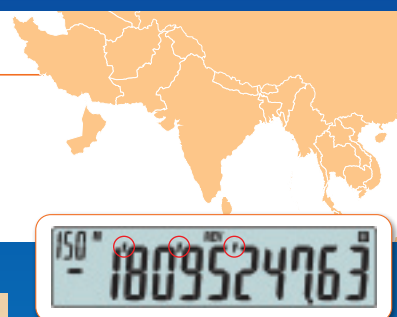
グローバル企業として 成長市場での飛躍を目指す

計算、時刻、音楽、画像など、世界中どこでも通じる情報を扱うカシオ製品は、国境を越えて愛用されてきました。一方で、地域や国ごとにさまざまな文化、習慣があり、それぞれの特性に合った製品も必要です。カシオは、地域のニーズにきめ細かく応えることで、より多くの人に製品を使っていただくとともに、グローバル市場での競争力を強化し、さらなる飛躍を目指します。

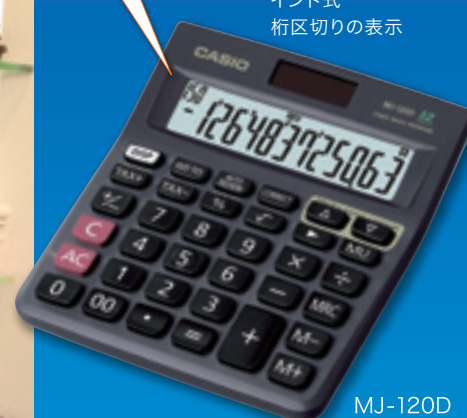


インド

インド独自の桁区切りに 業界で初めて対応



インド式
桁区切りの表示



MJ-120D

◀ インドでは電卓をレジ代わりにする店舗も少なくないため、慣れ親しんだ表示で使える電卓は重宝される

「インド式桁表示電卓」

数字の桁区切りは、3桁ずつ区切るのが世界標準ですが、インドでは千の位で区切った後、十万、千万と2桁ずつ区切るのが一般的。その独自の慣習に対応した電卓を初めて発売したのがカシオです。現地スタッフの要望を受けて開発し

たインド式桁表示電卓の評判は上々。もちろん、標準的な3桁区切りの表示にも対応しています。ユーザーのニーズに細やかに応える製品の提供こそが、カシオの本領です。

中国

中国語特有の発音記号を 簡単に入力

「ピンイン入力対応電子辞書」

中国語は、同じ読みでも発音の違い(四声)で意味が異なるため、文字入力の際にローマ字と四声独自の発音記号「ピンイン」を入力する必要があります。従来では、入力ごとに数字キーを押してピンインを指定していました。そこでカシオは、タッチパネルの導入により、ピンイン入力の手間を大幅に省ける中国語電子辞書を開発。使いやすさを追求するカシオならではの発想が生んだこの製品は、入力方法の特許も取得しています。



E-B99

▼ タッチパネルで手早く簡単に入力



中近東

身近なアラブの音色とリズムを より手軽に楽しめる



「オリエンタルキーボード」

中近東の音楽文化圏であるアラブやマグレブ、ハリージ、イラン、オリエンタルといった地域特有の54の音色、83のリズムを搭載した「オリエンタルキーボード」が話題を集めています。4分の1音下げるなど、西洋にはない音程をボタンひとつで鍵盤に割り当てられる他、ウードやカーヌーンといった中近東ならではの楽器の音色を奏でられるので、ユーザーに身近な音楽を楽しめます。

◀ コンパクトなので持ち運びも可能。どこでも手軽にアラブ音楽が楽しめる。



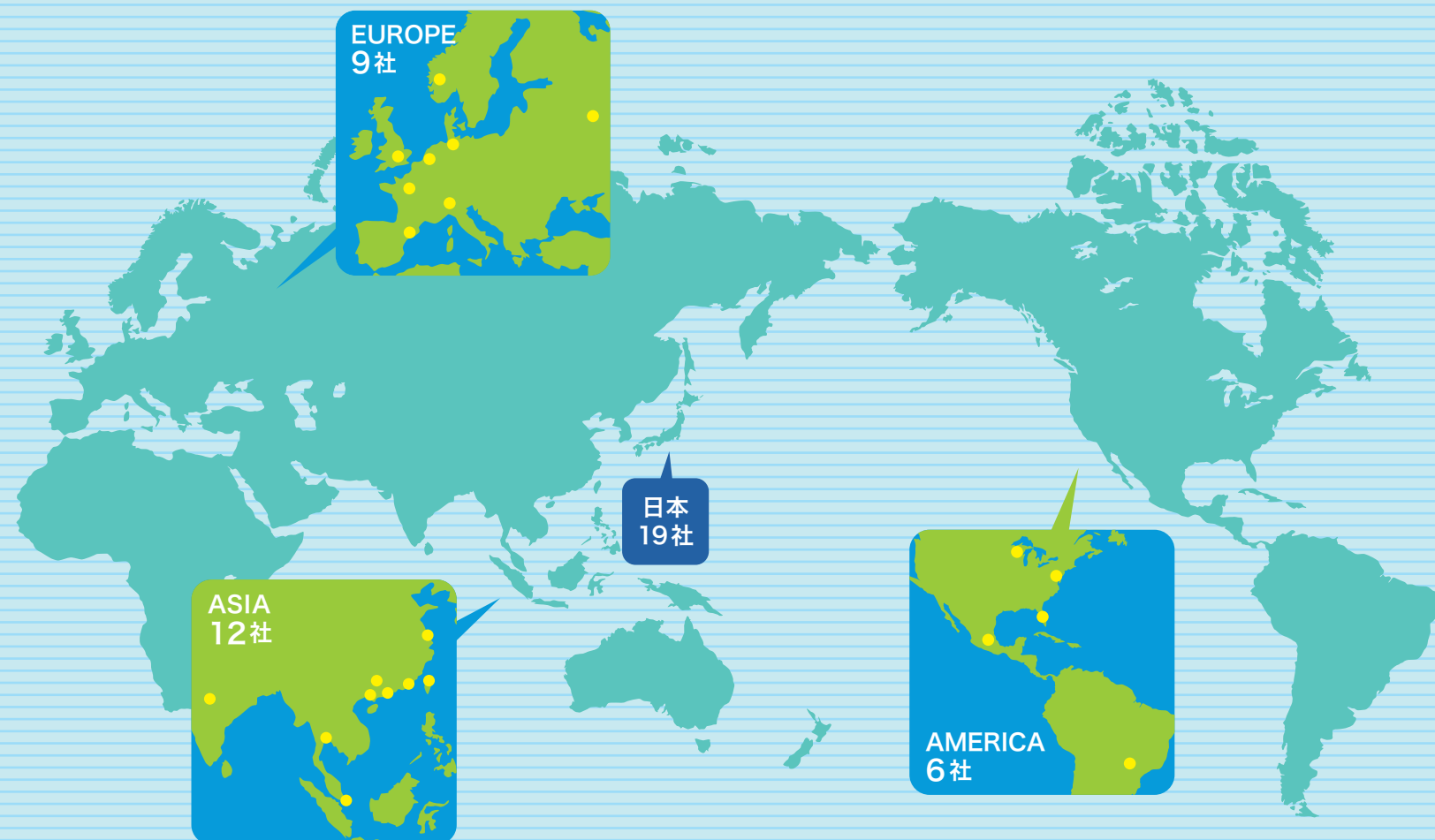
AT-3

【中近東の音楽文化圏】



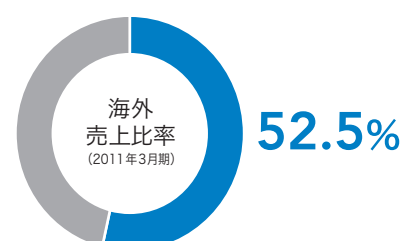
世界で活動するカシオグループ

世界各地に張り巡らされた製造・物流・販売などの拠点をネットワーク化して、カシオグループはグローバルに事業を展開しています。



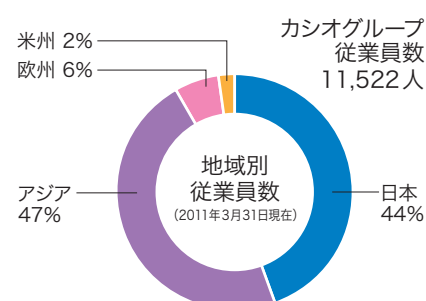
取引先は世界に 125カ国約2万社

カシオグループは、製品を作るための材料や設備の購入、製品の販売をはじめ、あらゆる企業活動を通じて、世界各国のビジネスパートナーと取引しています。それぞれの取引の拡大によってパートナーの皆様と共存共栄し、経済・社会の発展に貢献します。



従業員は世界で 11,522人

全世界のカシオグループには、開発・生産・販売拠点合わせて45の連結子会社があり、11,522人(2011年3月31日現在)の従業員が働いています。事業のグローバル化に合わせて、現地雇用を積極的に進めています。



CASIOブランドの権利化国比率 97.4%

※国連加盟国192カ国に対し187カ国

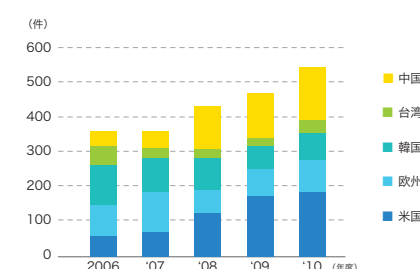
カシオ計算機は、グローバルな企業活動を円滑に遂行するために、事業品目を中心に世界187カ国・1,738件の商標権でCASIOブランドを保護しています。

Webサイトアクセス 海外比率 約8割

カシオグループは、世界の人々に、製品情報や企業情報を伝えるため、Webサイトを開設しています。これらすべてのアクセス数(ページビュー)のうち約8割を、海外向けサイトへのアクセスが占めています。

海外での特許登録数 534件

カシオ計算機は、事業活動のグローバル化に伴い、海外での特許取得の強化に取り組んでいます。特に、知的財産に関する競争が激しい米国や、市場が拡大している中国をはじめとしたアジア諸国での取得を、積極的に進めています。



1973年から米国・CESに毎年出展

全米家電協会が年に1回開催している、家電・情報・通信・エレクトロニクスに関する、アメリカ最大、世界でも最大級の総合展示会「Consumer Electronics Show」。

カシオは1973年から毎年出展を続けています。数々の新製品の発表がこの展示会で行われ、その年の新機軸を打ち出してきました。



価値を生み出す開発力

新しい価値をもった製品を開発し、新しい文化を創造する。
「ゼロから1を生む」ことがカシオの開発です。

0 → 1

ゼロから1を生む独創の機能美

カシオの製品開発では、斬新な企画を大切にしています。ユーザーが予想もしていなかったような新しい価値を生み出すには、既成概念にとらわれない発想から考えることが必要だからです。「EXILIM」EX-TR100は、今までのデジタルカメラの常識を一変させる大胆なデザインを採用。自在に動くフレームと、回転するレンズが、今までにない使い方を提案し、手軽に撮る楽しみを最大限に高めます。デザインと機能が一体となった、カシオならではのプロダクトデザインです。



※画面は「HDR アート」使用時のものです。

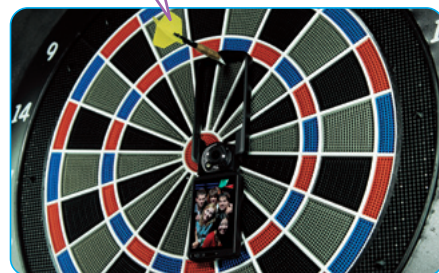
デザインが用途を“創造”

手でもつ、自立させる、壁にかけるといったさまざまなスタイルで、今まで撮れなかったアングルでの撮影や、手軽な据え置きでの動画撮影といった使い方を提供します。もちろん、最新鋭の画像エンジンが、期待を裏切らない画質を提供します。

カムコーダーのようにもつ

自立させる

壁にかける

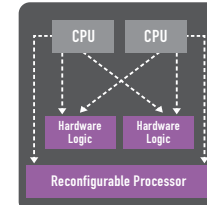


01

デジタル技術

デジタルで不可能を可能にする

デジタルカメラの「EXILIMエンジンHS」では、高速で分散処理を行うマルチCPUと、ハードウェアでありながら回路自身が柔軟に書き変わる「リコンフィギュラブル回路」により、複雑な画像処理を瞬時に行います。逆光・夜景などの状況を判断してノイズを抑え、美しい画像を記録します。

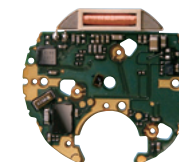


02

省電力

小さなパワーで賢く動く

電波を受信するアナログ回路とデータを処理するデジタル回路を一体化できる、業界初のオールバンドCMOS受信LSIにより、携帯電話などの1,000分の1程度の微小電力で安定して動作する電波時計用回路を実用化。「マルチバンド6」モデルから採用しています。



03

耐久性

いつでも使える安心感

「G-SHOCK」のガラス面、ボタン、裏蓋は、落下時も直接接地しないようにデザイン。心臓部のモジュールは、中空構造の中に浮いた形にレイアウトされ、各モジュール内の重要部品も緩衝材で守られています。

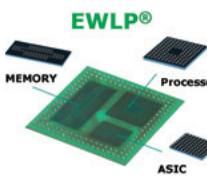


04

小型化

小さく、薄く、軽く

小型・高性能・高信頼性・低コスト・省材料な半導体パッケージとして、スマートフォンなどで急速に利用拡大しているWLP^{※1}。さらに、WLPをシステム基板上に内蔵した、最先端の高密度実装技術「EWLP^{※2}」も開発しました。



※1 WLP: Wafer Level Package ウエハー状態のままの再配線形成、電極端子形成と樹脂封止を行うことを可能にしたLSIパッケージ。
※2 EWLP: Embedded Wafer Level Package

05

使いやすさ

誰にでも使いやすく

電卓の上位機種では確実に間違いなく操作できるよう、わずかに1～9のキーの表面をへこませ、0などの手前のキーは指を引きながらはじけるよう、ゆるやかな凸型にしています。

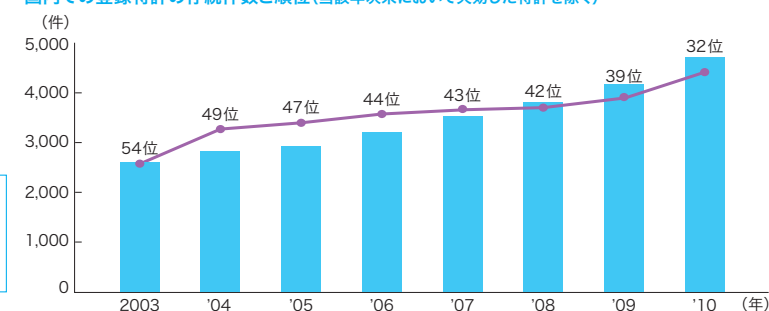


知的資産の着実な積み重ね

知的資産の強化のため、特許の出願と権利化に力を入れています。国内での登録特許の存続件数(当該年次末において失効した特許を除く)は速いペースで増加を続けています。

■ 総有効特許件数
● 順位
大学、研究機関および外国籍企業を除く
日本企業9,372社を対象に当社集計

国内での登録特許の存続件数と順位(当該年次末において失効した特許を除く)



次世代技術
への挑戦

スマートフォンのパートナー
『Bluetooth Low Energy搭載G-SHOCK』

近距離無線通信規格のBluetooth Low Energyを搭載したG-SHOCKが、腕時計の新しい使い方を提案します。例えばスマートフォンと連携することで、メール着信時のタイトル表示や時計側からスマートフォ

ンへの操作が可能になります。また、将来的には健康器具やゲーム機、パソコンなど身近にある機器への応用も想定でき、腕時計本来の機能に情報機器としての用途が加わり、時計の利便性が大いに広がります。

スピーディで無駄のないモノづくり

常に最先端の製造技術を磨き、サプライチェーン全体を同期させて効率良く運用しています。

上流から下流まで すべての工程がシンクロ

カシオが1年間に生み出す製品の数は、周辺機器も含めて1億個以上。色違いを含めて数千種類ある時計をはじめ、たくさんの製品を無駄なく素早く市場に届けるため、設計、調達、製造、物流の各工程が、シンクロしながら動いています。市場から最新の需要データを常に吸い上げ、今後の変化を予測して各工程に同時に伝えることで、移り変わる需要をとらえ、臨機応変に生産計画を立てています。

設計

設計データを共有し、 各工程で活用

設計は、使う材料の量、製造の手間、輸送にかかるエネルギーなど、以降すべての工程に影響します。そのため、余分なところをなくし、部品点数を少なく抑え、無駄を徹底的に排除しています。設計はすべて3D-CADで行い、設計データはオンラインで社内ネットワークを流れます。データは製造に必要な部品のチェックや、製造用の金型の作成、マニュアル用の図版作成まで、あらゆる下流工程で活用されます。

調達

市場動向に合わせて 調達量を調整

市場動向の変化に合わせ、生産計画も日々変わります。不足も余剰も出さないため、部品調達にも細心のコントロールが求められます。本社・工場とオンラインで結び、常に最新の計画に基づいて調達量を調整しています。また社会・環境問題に取引先と協働して取り組むため、「資材調達方針」を定め、説明会やアンケート調査を通じて浸透を図るなど、サプライチェーン全体でCSRに取り組んでいます。

製造

「最適地生産」を グローバルに展開

日本、中国、タイにある主力工場をはじめ、各国の生産拠点を、技術力、市場への距離、部材調達のしやすさ、労働コストなど、それぞれの特性により使い分け、国際分業で「最適地生産」を行っています。また安定供給のため、どの製品に対しても生産できる拠点を2カ所確保しています。製品や事業における競争力を高めるため、独自の生産技術を磨き、部品の内製化にも取り組んでいます。

物流

コスト・CO₂の削減と 効率化に注力

製品を効率的に、少しでも早く届ける工夫を重ねています。販売計画や時々刻々の貨物事情に対応して、コスト・輸送時間の少ない最適な輸送手段を見つけ出します。物流拠点の統廃合や、各地の最短ルート地点への再配置も進めています。運ばれるコンテナの規格から、無駄なく積める最適な箱の大きさを計算。梱包箱を目標サイズに収め、物流コストを下げるとともにCO₂の削減に取り組んでいます。

進化を続ける製造技術

高精度加工技術の結晶「タフムーブメント」



フルメタル電波ソーラー時計「OCEANUS」を駆動する「タフムーブメント」。ムーブメント自体が耐衝撃性を備え、標準電波で時刻を修正し、使ううちに生じるわずかな針ずれをも自ら補正する仕組みを備えています。

このムーブメントは、カシオグループ最先端の製造技術をもつ山形カシオで製造されています。製造ラインは、二重の入り口ゲートで隔離された、専用のクリーンルームに置かれています。自社で製造した直径2.2ミリ(最小)の小さな歯車が、画像認識処理機能を備えた組み立て装置で、100分の1ミリ単位の精度でモジュールに組み込まれます。製造装置を制御するプログラムは、カシオ計算機の技術力と山形カシオが蓄積してきた製造ノウハウを融合してできたものです。高精度組み立て加工の技術の積み重ねが、このムーブメントの製造を可能にしました。

共感を広げるコミュニケーション

カシオが商品を通じて提案する新しい価値をお客様に理解していただくために、さまざまなコミュニケーションの工夫をしています。

1 SHOCK THE WORLD

G-SHOCKの本質である「タフネス」を、ファッション、音楽、スポーツ、アートを通じて若者に発信しています。2008年、ニューヨークでの成功を機に世界各地で開催し、2009年は世界19都市、2010年は世界23都市で実施しました。

世界中に巻き起こす“G-SHOCK”旋風

G-SHOCKのメッセージを直接発信する場として、世界各国で大盛況を博しているのが「SHOCK THE WORLD」です。G-SHOCKのことをもっとよく知り、ブランドの世界観を共有してもらうことで、さらなるブランドステージの向上を目指しています。

ワールドツアーでのイベントという形式は、世界中で愛されるG-SHOCKならではの発想です。生のコミュニケーションを重視したこのイベントでは、製品のみならず、若者文化をミックスした演出により、アーティストやダンサーなど多彩なゲストと来場者が、G-SHOCKという共通語で一体となり、体験を共有します。



A M E R I C A



E U R O P E



A S I A

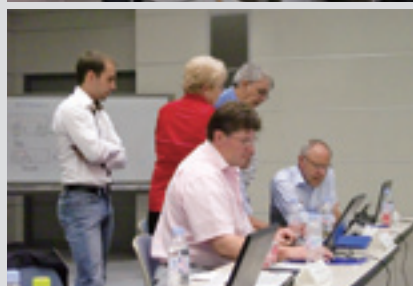


2 グローバルティーチャーズミーティング

2010年8月下旬に、東京のカシオ本社に北米・欧州・豪州などの数学の先生を招き、グラフ関数電卓のカラー化による教育的効果などを議題にしたミーティングを実施。教育現場でより役立つ関数電卓を目指して議論を展開しました。

関数電卓の活用方法を先生とともに考える

欧米では、数学の授業に広く関数電卓が使われています。カシオは計算機のトップメーカーとして、世界中の教育現場から寄せられる期待や要望に応えるため、高精細カラー画面を搭載したグラフ関数電卓など、教育に役立つ製品の開発に積極的に取り組んでいます。その一環として、重視しているのが先生とのコミュニケーションです。実際に関数電卓を使った授業を組み立てる立場の先生たちと意見を交わしながら、どういった教材なら教えやすいのかを一緒に考えています。



3 中国楽器コンテスト

中国で開催されている全国キーボードコンテストは、国際交流や慈善事業を実施する公共機関「宋慶齡基金会」が主催して1986年に第1回大会が開かれました。その後2年ごとの開催で、カシオは第2回から協賛。2010年の第13回大会からは主催者となりました。

音楽の楽しさを伝える楽器コンテスト

楽器の楽しみ方は人それぞれですが、演奏を人に聞かせることで上達が促され、満足度も高まります。市場に商品を提供するだけでなく、大勢の前で演奏を披露できる場を提供することも、音楽の楽しさを知ってもらう大切なコミュニケーションのひとつです。カシオは中国でキーボードコンテストの全国大会を支援しています。2010年8月には、中国全土から参加した7,000人の中から、予選を勝ち抜いた子供たちが桂林市に集結し、素晴らしい演奏で人々を感動させました。



グループで取り組む環境経営

持続可能な社会の実現に向けて、カシオグループは地球温暖化防止と生物多様性の保全に積極的に取り組んでいます。

カシオの考える環境経営

カシオは創業当初から、より小さく、薄く、軽く、ローパワーな製品を作ることに、力を注いできました。天然資源の乏しい日本で、商品価値を高めるためにいかに材料やエネルギーを節約しながら、モノづくりをするかを考えていたのです。カシオのモノづくりには、環境負荷を減らす姿勢が根付いています。カシオグループは、環境負荷の小さい製品を作ることはもちろん、生産、販売、物流、資材調達などの企業活動全体において環境負荷の低減に取り組む「環境経営」を実践しており、特に重点とすべきテーマは「カシオ環境宣言」として明文化しています。

カシオ環境宣言

1. CO₂の削減と吸収
2. クリーンエネルギーの活用
3. 資源の有効利用
4. 事業活動の
再生可能エネルギー導入
5. 生態系の保全



中長期的な環境への取り組み

「カシオ環境宣言」に掲げられている中でも、最も重視しているのが、国際社会が総力を挙げて取り組んでいるCO₂の削減です。私たちメーカーが社会に果たすべき役割として、具体的なCO₂削減の数値目標を定めた2020年度、2050年度に向けた中長期行動目標を立て、グループを挙げて、達成を目指します。また、私たちの社会は、さまざまな生物が共存する生物多様性の上に成り立っています。企業活動においても、生態系を破壊することなく、豊かな生命を育んでいくための努力をしなければなりません。事業活動が生態系へ及ぼす影響評価を行い、必要に応じ対策を講じて、次の世代へと、かけがえのない地球を受け継いでいきます。

CO₂削減への取り組み

2050年度に2005年度比80%削減を長期目標とし、2020年度に2005年度比30%削減を中期目標としています。さらには、データプロジェクター、電子辞書などのペーパーレス化に役立つ製品によるCO₂削減、カーボンオフセットなどにより、カーボンニュートラルな企業を目指していきます。

生物多様性への取り組み

2011年3月31日付けで制定した「生物多様性ガイドライン」に基づき、順次、事業活動における生物多様性にかかわる影響評価と、グリーン調達基準書の改訂並びにその内容に基づくサプライヤー調査を実施し、カシオとしての生物多様性に対する取り組みを確実に進めていきます。

技術を活かした環境にやさしい商品づくり

カシオは技術力を活かして、環境負荷の小さい商品づくりに取り組んできました。自然の光だけで動く電波ソーラー時計、小さな本体にたくさんのコンテンツを内蔵した電子辞書、フィルムも現像液も要らないデジ

タルカメラなどの開発によって、人々の生活そのものの省資源、省エネルギー化を実現してきました。



「カシオグリーン商品」を設定、目標を達成

環境に配慮した商品づくりを促進するため、2001年度より、製品が環境に与える影響を事前評価して、一定以上の基準を満たした製品を「グリーン商品」と認定する社内制度をつくりました。2008年度には全売上高に「グリーン商品」が占める割合が84%に達しました。2009年度、2010年度も80%以上の目標を達成しています。

さらに高い目標を目指し「カシオグリーンスター商品」を新設

2009年度からは、持続可能な社会の実現に向けた新たなトレンドをつくる商品として「グリーンスター商品」の認定制度を設けました。「グリーン商品」の中でも、特に優れた環境側面を一つ以上有する商品を「グリーンスター商品」として認定する制度で、2012年度までに全売上高に占める比率を30%とする目標を掲げました。認定した商品には、環境配慮型商品の証として「グリーンスターマーク」を表示しています。



■各商品の評価項目

グリーン商品評価	グリーンスター商品評価
再資源化の促進（材料表示）	使用時の消費電力を20%以上削減
リサイクル設計	太陽電池使用とエコマーク取得（電卓）
単一素材部品への分離	太陽電池使用（時計）
再資源化の向上	10年バッテリー搭載（時計）
資源の減容化	本体体積を20%以上削減
資源の減量化	重量を20%以上削減
省エネ化	個装箱の小型化により積載率を20%以上向上
化学物質の使用規制	再生プラスチックを重量比30%以上使用
電池の再資源化	バイオプラスチックを重量比25%以上使用
電池のリサイクル表示	特定有害化学物質廃止（塩ビ）
法規制準拠	LCA環境影響評価で10%以上の改善
単一分別・分解	製品環境効率で10%以上の改善
梱包材の使用規制	環境性能に大きく貢献する機能/サービス（上記以外）
自然環境保護	
●100点満点中90点以上	●グリーン商品基準を満たし、上記項目に該当ありの場合

※ただし、一部品目でグリーンスター認定基準に変動あり。
※環境の変化に伴い定期的に基準を見直します。

グリーンスター商品事例

水銀フリーのデータプロジェクター



XJ-M255



光源に水銀ランプの代わりに、カシオ独自の「レーザー&LEDハイブリッド光源」を使用した水銀フリーのデータプロジェクターです。有害物質である水銀を使わずに、明るい部屋でもくっきり投影できる高輝度を実現した仕様が「環境性能に大きく貢献」していることと、「消費電力の20%以上の削減」などから「グリーンスター商品」に認定されました。

東日本大震災後のエネルギー不足に対する緊急施策

東日本大震災後の電力事情の逼迫を受け、カシオグループでは、消費電力の節減のため緊急施策を実施。夏季の休日を、従来の土曜日と日曜日から水曜日と日曜日に振り替える他、一部製造拠点での勤務時間の変更、オフィスの照明の一部消灯や空調設定温度の変更、エレベーターの一部停止、クールビズ適用期間の拡大などにより、節電に努めています。その他、エネルギー節減のためにグループを挙げて努力していきます。



企業体質を強化するITとマネジメント

最新のIT(情報技術)を積極的に活用し、グループ全体の経営効率化に努めています。また、経営を着実に遂行していくための方針と仕組みを明確に規定しています。



IT≫グループ・クラウドで一体経営を実現

今、コンピューターの世界では「クラウド」が大きな注目を集めています。複数のコンピューター群が連動し、ユーザーに高度なサービスを提供する仕組みです。カシオは、グループ企業間の壁を取り払い、スムーズな一体経営を実現するため、「グループ・クラウド」の構築を進めています。

サーバー統合によるクラウド基盤づくり

カシオでは、2004年より、社内に分散していたサーバーの統合を続けています。1台のマシン上で複数台分を稼働させる「仮想化技術」でサーバーを集約し、運用を効率化するとともに、データベースの共有化やシステム同士の連携がしやすいクラウド基盤づくりを行っています。また、台数を減らすことにより、導入コストを抑え、CO₂の排出も削減しています。当初社内に約1,000台あったサーバーのうち、2010年度までに600台を統合し、年間約90万kWの電力量を削減。これは約326トンのCO₂削減に相当します。

世界中どこでも使える業務システム

グループの経営情報を一元的に管理し、生産・販売・会計などの基幹業務を共通化するため、ERP(Enterprise Resource Planning)と呼ばれる統合システムを導入しています。人事・給与管理などの社内システムも、グループでの共通化を進めています。また現在、クラウド基盤を活用して、海外営業拠点向けの販売システムを、世界中のどこでも使えるよう標準化に取り組んでいます。これによって新興国などへのスピーディな進出や売上拡大が可能になります。

リアルタイムでグループ経営情報をモニター

グループ共通の業務データをクラウドに集約。グループ経営戦略に必要な社内・社外のさまざまな情報を、リアルタイムで見られる経営情報システムの構築に取り組んでいます。次々と流れ込んでくるデータを基に、経営計画の進捗をとらえ、素早く次の施策を立てられます。クラウド上でグループ各社が同じ情報、同じ分析視点、同じ指標を共有することにより、統一された戦略を立てることが可能です。

災害リスクへの対応

災害による停電発生などのリスクにも備えています。重要な業務を支える基幹システムは、自社内と社外の2カ所のデータセンターに分散させておき、地震などで一方が稼働できなくなった時は、もう一方ですべての基幹システムが作動するようにしています。

MANAGEMENT≫健全で公正な経営を目指して

自らの手で独創的な製品を作り、社会の進歩に役立てたい。「創造 貢献」の経営理念は、こうした創業者の志から生まれました。この理念をしっかりと継承し、カシオで働く一人ひとりに行き渡らせるとともに、責任ある企業として、企業価値を高め、透明性の高い経営を実践していくため、さまざまな取り組みを行っています。

カシオ創造憲章

事業を通じた社会貢献をうたうカシオの経営理念「創造 貢献」は、現在のCSRの概念に通じています。この経営理念を常に従業員が意識して実践するために「カシオ創造憲章」および具体的な行動指針を定めています。ここにはCSRの3つの側面(経済・環境・社会)とコンプライアンスに対する考え方が含まれています。

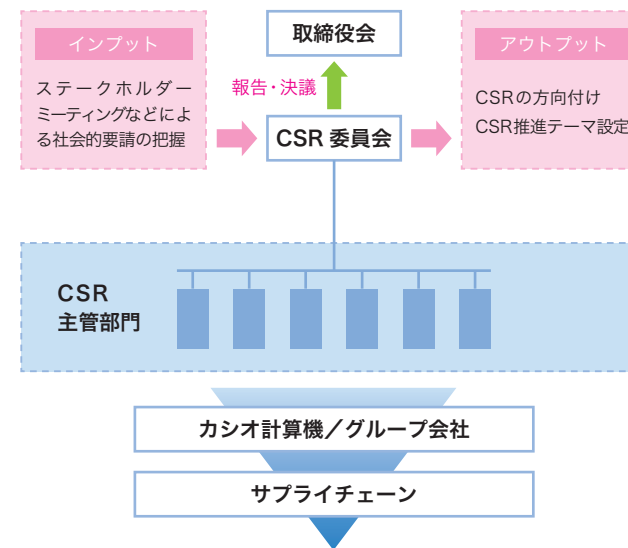
- 第1章** …… 私たちは、独創性を大切にし、普遍性のある必要を創造[※]します。
- 第2章** …… 私たちは、社会に役立ち、人々に喜びと感動を提供します。
- 第3章** …… 私たちは、プロフェッショナルとして、常に誠実で責任ある言動を貫きます。

※普遍性のある必要を創造：誰にとっても必要でありながら、まだ世の中になかったものを、新たに生み出すこと。これは製品開発のみならず、すべての業務においてカシオが追求すべきものです。

CSR委員会

CSR経営を確実に推進するための仕組みとして、取締役会の下部にCSR委員会を設置しています。ステークホルダーとのコミュニケーションを通じて、社会からの要請を基に取り組むべきテーマを設定しています。CSR主管部門ではテーマ推進の年間計画を策定し、マネジメントサイクルを用いて課題の解決に努めています。

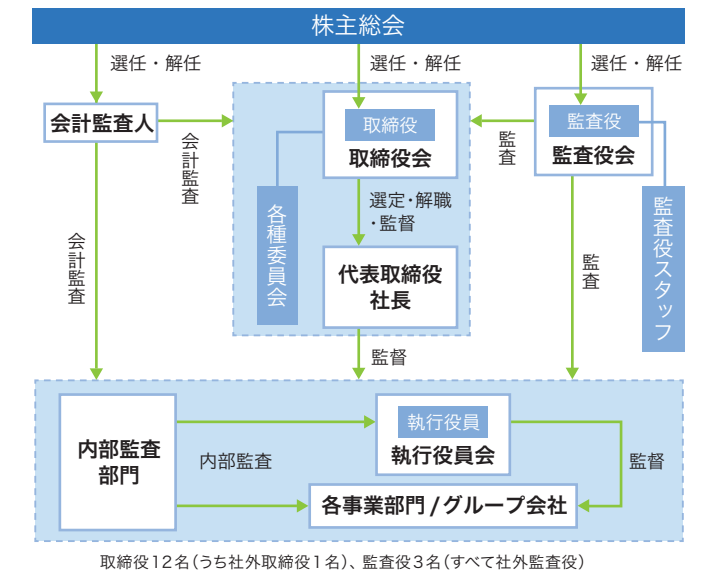
■CSR委員会体制



コーポレート・ガバナンス

経営目標を確実に達成し、企業価値を継続的に高めていくためには、迅速な意思決定や適切な業務遂行とともに、経営の健全性と透明性を高める経営監視機能の強化が重要です。執行役員制度の導入や社外取締役・社外監査役の選任など、体制面の充実を図り、コーポレート・ガバナンスの強化に取り組んでいます。

■コーポレート・ガバナンス体制



コンプライアンス

カシオグループ倫理行動規範を基盤として、公益通報ホットラインとリスクマネジメント体制の運営により、三位一体のコンプライアンスマネジメントを推進しています。

カシオグループ倫理行動規範

役員および従業員の一人ひとりが、業務遂行上はもとより日常においても、行動する上での具体的な判断の拠りどころとして「カシオグループ倫理行動規範」を定めています。

リスクマネジメント

「リスク管理基本方針」を制定し、リスク管理委員会を設けて、リスク対策の実施とマネジメントサイクルの構築を推進してきました。現在はCSR委員会で推進状況のモニタリングを行っています。

公益通報ホットライン

社内・社外の両方に専用の通報窓口を設け、問題の早期発見と予防に努めています。通報者の保護はもちろん、不適切な行為に対しては毅然と対応し、中立公正な窓口として運営しています。

グローバル・コンパクトへの加盟

グローバル活動を行う企業として、国際社会の持続的成長に寄与するため、国連が提唱する「国連グローバル・コンパクト」に参加。経営トップからのメッセージ

によりグループ全体への趣旨の浸透を図るとともに、テーマに応じてグローバル・コンパクトの分科会に参加し、理解を深めるとともに定着を図っています。



従業員とともに歩むカシオ

会社と従業員がともに発展を続けていくため、快適に働けるよう基盤を整え、もてる力を発揮できる仕組みをつくっています。



プロフェッショナルを育てる

従業員の能力は会社の最も大事な財産と考え、プロフェッショナルな人材の育成活動に力を入れています。



エンジニアが現場で専門知識を体得

優れた商品企画のためには、ユーザーニーズを深く理解する必要があります。開発担当のエンジニアは、技術を追求するだけでなく、時にフィールドに飛び出し、製品が使われるシーンを自ら体験して、専門知識を深めています。例えば、登山者に使われるアウトドアウオッチ「PRO TREK」の開発者は、実際に山に出かけて岩壁や雪山を登り、過酷な環境の中で求められる性能や使い勝手とは何かを、自分の身で確かめます。

社会の先端動向を学べるセミナー

カシオの開発拠点である羽村技術センター（東京都）では、社外の方を講師に招いて、最先端の市場動向や技術動向を学ぶセミナーを開いています。興味をもった従業員は、自由に聴講を申し込むことができます。2010年はAR（拡張現実）や電子書籍、中国やインドの市場などのテーマで、セミナーが開催されました。

モノづくり技術者の育成

山形カシオでは、高い水準のモノづくりができる技術者を育てるため、製造技術の教育に力を入れています。プラスチック成型、金型製作、放電加工といった技能の国家資格の取得を奨励する制度を設けて資格者を増やし、レベルアップを続けています。熟練した技術者による社内の技能講習により、培った技術の伝承にも取り組んでいます。



平等な機会を提供

働く機会は皆平等であるべきという考えのもと、

雇用や進路選択などのあらゆる局面で、均等に機会を提供しています。



採用活動での機会均等

カシオは「カシオグループ倫理行動規範」の中で、性別・信条・宗教・人種・社会的身分や障害などを理由とした不当な差別を行わないこと、および児童労働や強制労働を一切行わないことを明記しています。グループ各社でこれを共有し、各地での採用活動の際にはこうした方針に則り、平等な雇用を促進しています。

自分の将来を描ける「キャリアチャレンジ制度」

カシオの「キャリアチャレンジ制度」は、従業員が自分の挑戦したい仕事を選ぶ仕組みです。自分の経験してきた仕事と、今もっているスキルを社内で登録し、希望の仕事を申告することができます。また、プロ野球のFA（Free Agent）制度のように、一定期間同じ仕事を続けた従業員が、優先的に新しい仕事に挑める制度も設け、従業員が新たな経験を積むチャンスを提供しています。

従業員と家族を大切にする

従業員が毎日気持ち良く働けるように、職場の環境を整えています。

また、従業員の家族とのつながりも大切にしています。



オフィスで親子が一緒に学ぶ

カシオアメリカでは、従業員の子供がオフィスを訪れる「Take your kids to work day」を実施しています。8～12歳の年齢層を対象に、電卓の組み立てなどの体験学習を行い、親子がともに行う作業を通してつながりを深めることを目指しています。

母乳での育児を支援

従業員の90%を女性が占めるカシオタイでは、子供の健全な成長にとって大切な母乳を十分に確保できるよう、会社で働いている時間中でも母乳がとれる設備を社内に置いています。空気清浄機を備えて衛生的に保った室内に、自治体から支給された母乳用の保存バックを置き、冷蔵庫の中の専用スペースで保存できる仕組みです。専門のインストラクターも置いて、授乳方法や衛生的な母乳の保存方法も指導しています。カシオタイは、タイの厚生労働省が認定する「労使関係・福利厚生における優良企業賞」を2006年から5年連続で受賞しています。



従業員の交流をサポート



従業員同士の親睦を深めるための支援として、カシオアメリカでは「Holiday lunch」を実施しています。夏のバーベキューやクリスマスのデコレーションメニューなど、季節のイベントに合わせてふるまわれる、特別製の昼食です。

カシオグループの社会貢献

健全で心豊かな社会づくりを目指して、さまざまな社会貢献活動を行っています。取り組みの一部をご紹介します。

地域への貢献



教育・学術への貢献



地域への貢献

地域社会の一員として人々とコミュニケーションを図り、地域に根ざした活動に取り組んでいます。

A. さくらんぼマラソンに協賛

山形カシオは企業活動だけでなく、地元・東根市での活動を通じて地域により愛される企業を目指して「果樹王国ひがしね さくらんぼマラソン大会」に、2004年より協賛しています。

2011年の大会では、協賛企業として賞品提供や販売ブースの出店を行い、従業員約80名がランナーや応援団、沿道整理ボランティアとして参加しました。

B. 工場見学の受け入れ

甲府カシオでは、小学校などの依頼を受けて、工場見学の受け入れを行っています。電卓の分解・組み立て体験によるモノづくりの学習や、地球環境問題についての授業をしています。

す。カシオ計算機の八王子技術センターでも、地元の小学校を中心に、施設見学の受け入れと社内での授業を行っています。

C. タイの洪水被害者支援

2010年秋にタイで大規模な洪水が発生し、広い範囲が被害を受けました。カシオタイでは、従業員と会社が寄付金を出し合い、また食料やろうそくなどの支援物資を被害地域の

知事に届けました。救援物資の配布にはカシオタイの従業員も参加して、被害にあった地域住民に直接支援物資を手渡しました。

D. 福祉作業所に再資源化のための分別作業を委託

カシオビジネスサービスでは、製品や販促物を再資源化のために分解し、材料ごとに分別する作業を、社会福祉法人 友愛学園が運営する青梅福祉作業所(東京都)と、特定非営利活

動法人ポプリが運営する就労継続支援事業所(静岡県)に委託しています。知的障害や身体障害をもつ方々の自立を支援しながら、資源のリサイクル活動をしています。

教育・学術への貢献

独自のノウハウや経営資源を活かして、社会の知的進歩に役立つことを目指した活動を展開しています。

E. 高精度計算サービスの提供

カシオ計算機は、計算機メーカーとして培ってきたノウハウを社会で広く活用していただくため、さまざまな計算ができるWebサイト「keisan」を無償で提供しています。こよみ計算

や単位換算などの生活に役立つ計算から本格的な数学計算まで、600以上のライブラリをもち、職場や家庭で幅広く活用されています。

F. カシオ科学振興財団への支援

カシオグループは「カシオ科学振興財団」への支援活動を通じて、科学技術の発展に貢献しています。

カシオ科学
振興財団

カシオ科学振興財団は、カシオ計算機の創立メンバーである樫尾茂・前会長と樫尾四兄弟がわが国の学術研究の発展と振興に寄与するため、1982年に設立した財団です。「特に萌芽的な段階にある先駆的かつ独創的研究」を対象に、研究助成活動を行っています。今回の震災で大きな被害を受けた東北地方の三大学には、研究活動の回復を支援するため、合計1,000万円を寄付しました。

東日本大震災について

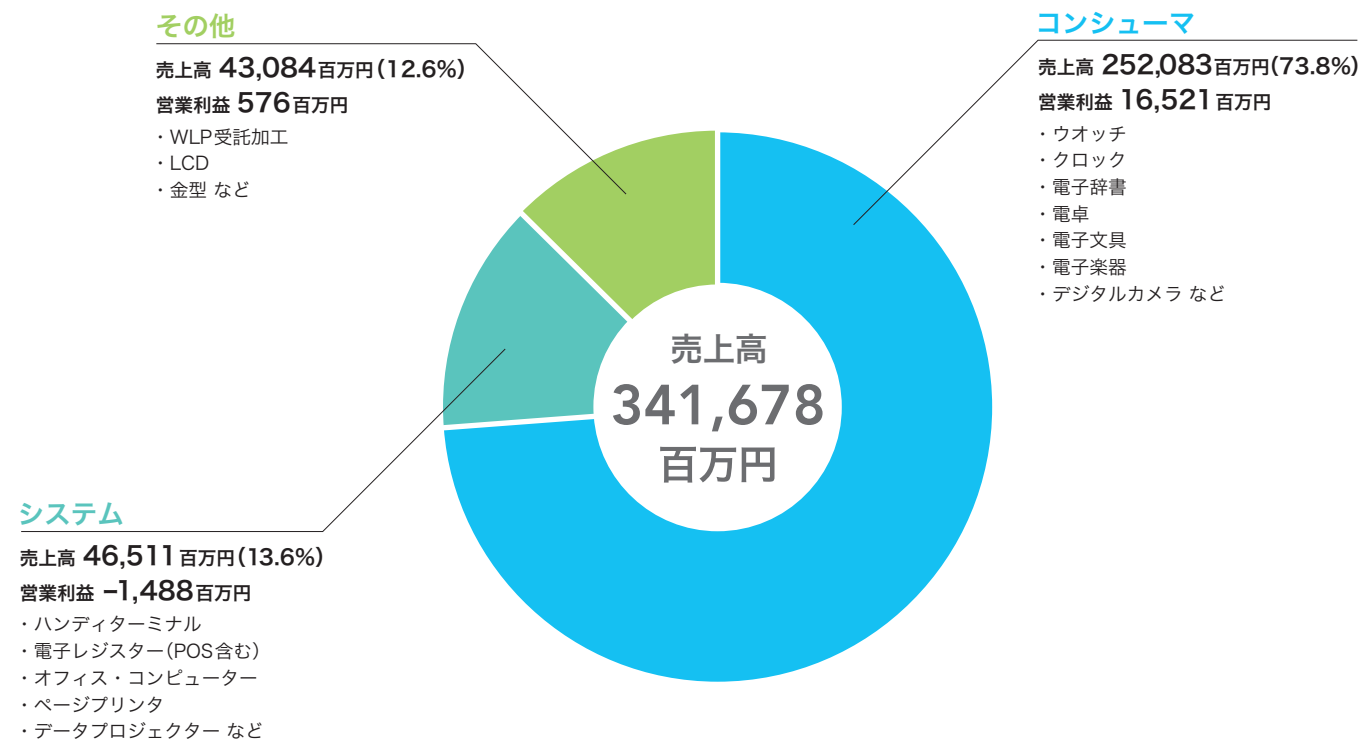
カシオグループは、東日本大震災による被災者の救済と被災地の復興に貢献するため、救援活動資金として総額5,500万円を寄付するとともに、従業員の寄付に会社が同額以上を拠出するマッチングギフトを実施。海外も含めた従業員からの募金総額約1,057万円とカシオ計算機の拠出額2,200万円の合計約3,257万円を寄付しました。また、今回の震災によって両親を亡くした震災孤

児を支援するため、継続的に寄付を行います。2011年度500万円、以降毎年200万円を10年間継続して寄付し、総額2,500万円を拠出します。以上により、カシオグループの拠出する支援金総額は、合わせて1億200万円となります。この他、置時計・掛時計やGPS機能付デジタルカメラ、電卓などの当社製品を寄贈しました。

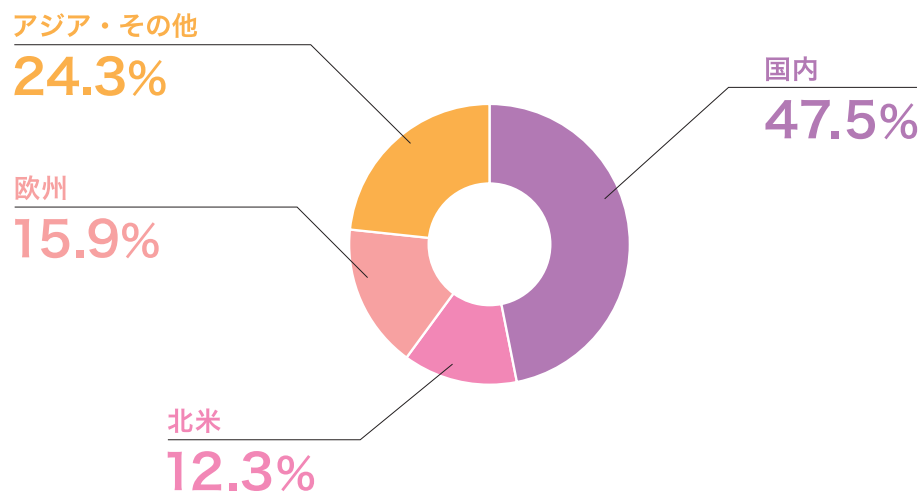
売上高と利益 (2011年3月期 連結)

■売上高	341,678百万円
■営業利益	12,042百万円
■経常利益	11,702百万円
■当期純利益	5,682百万円

報告セグメントごとの売上高と営業利益



地域別売上高



ABOUT CASIO COMPUTER

会社概要 (2011年3月31日現在)

商 号	カシオ計算機株式会社
英 文 商 号	CASIO COMPUTER CO., LTD.

本 社 〒151-8543 東京都渋谷区本町一丁目6番2号
 TEL.03-5334-4111(代表)

設立年月日 1957(昭和32)年6月1日

資 本 金 485億9,200万円

従 業 員 数 2,629名

役員 (2011年6月29日現在)

取締役

代表取締役社長

樫尾 和雄※

代表取締役副社長

樫尾 幸雄※

専務取締役

村上 文庸※ (コンシューマ事業部長)

常務取締役

高木 明徳※ (財務・IR担当)

中村 寛※ (営業本部長)

樫尾 彰※ (営業本部 副本部長 兼 システム事業部長)

取締役

高須 正※ (知的財産 兼 環境担当)

高島 進※ (研究開発担当)

武市 浩一※ (総務人事統轄部長)

増田 裕一※ (時計事業部長)

樫尾 和宏※ (DI事業部長)

石川 博一 (社外取締役)

※印の取締役は執行役員を兼務しています。

監査役

監査役(常勤)

本多 健 (社外監査役)

寺尾 康史 (社外監査役)

監査役

大徳 宏教 (社外監査役)

執行役員

取締役を兼務する者以外の執行役員は以下のとおりです。

大埜 修 (生産資材統轄部長)

矢澤 篤志 (業務開発部長)

持永 信之 (VP事業部長)

守屋 孝司 (営業本部 戦略統轄部長)

中村 均 (営業本部 国内営業統轄部 副統轄部長)

樫尾 哲雄 (営業本部 CS統轄部長)

沖室 敏治 (営業本部 海外営業統轄部 副統轄部長)

外山 秀之 (総務人事統轄部 人事部長)

泉 徹郎 (システム事業部 副事業部長 兼 CXDネクスト社長)

樫尾 隆司 (宣伝部長 兼 カシオコミュニケーションプレインズ社長)

中山 仁 (QV事業部長)

高野 晋 (財務統轄部長)

山岸 俊之 (経営統轄部長)

小林 誠 (秘書渉外部長)